

琉球病院 Monthly



独立行政法人
国立病院機構 琉球病院
National Hospital Organization RYUKYU Hospital

Vol.14
2014 February

発行者 琉球病院事務部長
藤田 博文

院長

村上優（むらかみ・まさる）

1949年生まれ、
74年九州大学医学部卒業。
86年国立肥前療養所精神科医長。2002年国立肥前療養所臨床研究部長、
同年King's College London Institute of Psychiatry（司法精神医学研究所）長期研修。
2005年花巻病院臨床研究部長（併任）を経て、2006年琉球病院長に就任。
日本司法精神医学会理事、日本アルコール関連問題学会監事、NGOベジャワール会の副会長として活躍。



基本理念

この病院で最も大切なひとは医療を受ける人である

精神科デイケアについて

精神科のデイケアとは、外来通院されている方が昼間の時間に通ってきて活動するところです。いろいろな悩みを抱えた仲間の集まる社会資源のひとつです。この活動を通して地域で生活することを援助していきます。当院のデイケアは、9:30～15:30の6時間、月～金曜日（土日、祝祭日はお休み）で実施しています。現在1日平均で48名前後のメンバーが参加しています。

送迎バスが ①沖縄市・与勝コース ②読谷・石川コース ③名護コースA・B の4コースで運行しており、近所のメンバーは徒歩で参加する人もいます。到着するとまず受付をし、体温測定を自分で行います。その後、ミーティングやプログラムを実施します。

プログラムは、学習系（心理教育：病気の勉強、SST：対人交流の勉強、パソコン教室、栄養学習会など）運動系（グランドゴルフ、ウォーキング、ダンスなど）手芸系（貼り絵、塗り絵、工作など）、外出系（図書館、施設見学など）、リラクセス系（リラクゼーション、アロマミュージックなど）様々なことを行っています。

医師、看護師、心理療法師、精神保健福祉士、作業療法士などの専門家が個々の目的や希望、必要性を確認しながら、参加するプログラムや過ごし方を相談します。就労を希望しているメンバーには、作業所見学や体験などの機会を設けたり、就労に必要なことは何かを話し合ったりとサポートしています。



作業療法士
デイケアシステムマネージャー
和宇慶 育子

診療科

- ・一般精神科
- ・こども心療科
- ・物忘れ外来
- ・アルコール依存症等外来

病床数 406床

- ・精神科病棟 181床
- ・認知症 50床
- ・アルコール 54床
- ・児童思春期
ユニット 4床
- ・重症心身
障がい 80床
- ・医療観察法 37床



●アクセス
路線バス/那覇BS(下り)または名護BS(上り)より沖縄バス
[77番名護東線]浜田バス下車徒歩3分
自動車/那覇市から40分
沖縄自動車道金武インターから名護向け5分

トピックス

行事・出来ごと

●琉球病院ホームページがリニューアルいたしました。

トップページのNEWSにおいては、これまでの一括表示から利用者さまの状況にあわせたフィルタ一択一式にて表示を行うなど、見やすさをテーマに表示の整理を行いました。今後、マンスリーともども当院の情報を発信していきますので何卒ご利用のほどお願いいたします。

●病棟等建替整備の動き

- 進捗状況 本体工事：請負業者 電気設備・・・(株)九電工
- 機械設備・・・(株)三建設備工業
- 建築(第1期)工事・・・平成26年3月25日(火)入札予定
- 作業療法棟(あしびなあ～)平成26年2月13日(木)14:00～15:00
院内対象

教育・研修

- ミニコンサート
～クラシックギター演奏～

●地域医療連携室だより

・活動状況 当院には、50床の認知症治療病棟があり、地域医療連携室が窓口として医療機関、包括支援センター、ご家族の方からの電話・来所相談を行っています。昨年は近隣の市町村の民生委員の集いへ出向いてのミニレクチャーや、民生委員・地域包括支援センターの方を対象に病棟見学会を行ってきました。関係機関や地域の方々よりご要望があれば、今後も「認知症治療病棟見学会」や「認知症勉強会」の開催を積極的に行いたいと考えております。「認知症の対応に困っている」等、何かお困りなことがあれば、お気軽に地域医療連携室へご相談下さい。

お問い合わせ時間
8:30～17:15(土・日・祝日以外)
TEL:098-968-2133(代)
内線:231・234
FAX:098-968-7370
地域医療連携室直通



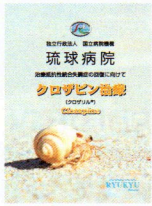
空床状況

精神科病棟 15床	認知症 5床	アルコール 10床	児童思春期ユニット 1床
--------------	-----------	--------------	-----------------

1月28日現在

※入院予約に関するお問い合わせは地域医療連携室へご相談下さい。

治療抵抗性精神疾患への医療



クロザピンの治療状況

治療抵抗性統合失調症に対して、平成22年2月に1例目の投与を開始し、全症例は102例となりました。退院数も35例を越えています。一度退院した患者様が再入院されることもあります。短期間で退院するケースがほとんどです。クロザピン専門外来も週に2回行っており、患者様のご相談をお待ちしています。

m-ECTの治療状況

当院では、県立北部病院麻酔科のご協力の下、m-ECTによる治療を行っております。平成25年12月の治療実績は5例であり、各症例とも改善傾向が認められております。

こども心療科

当院では地域の関連機関と連携し、外来及び入院を通して発達障がい・情緒障がいを有する子ども・ご家族への専門医療の提供を行っています。初診は1時間～2時間程度かかり、2～3回の受診後、診断・報告となります。入院治療は他機関からの紹介も受け付けております。外来・入院治療ともに、こども心療科の受診は予約制となっております。外来紹介のパンフレットもございますので、地域連携室へお問い合わせください。

認知症医療

認知症の患者様は高齢であることから、様々な合併症をお持ちの方が多くおられます。私たちの病棟の患者様も平均年齢73.5歳と高齢のため、高血圧や糖尿病、心疾患をはじめ、胃瘻や酸素吸入が必要な方もいらっしゃいます。

身体的な問題については、当病棟の精神科担当医と常勤の内科診療部長が診察を行い、当院で可能な範囲の治療を継続して行いながら、主問題である認知症のBPSDに対応しています。一般病院や介護施設において、BPSDの問題でお困りの場合は、遠慮なく地域連携室 伊波までご相談ください。



重症心身障がい児医療

重症心身障害病棟での日常的なケアで大切なことは、利用者の快・不快を汲み取ることです。当病棟の利用者は、自身の心身の状態を他者へ上手く表現出来ない方がほとんどです。職員が利用者の「普段の様子」と「現在の様子」を比較して観察し、少しでも変化を感じれば対応を行ったり、場合によっては主治医の診察を行ったりして対応しています。便秘や風邪症状等が「身体」に不快を及ぼし、「精神」状態が悪化する場合があります。また暑さや寒さ、気候の変化も利用者の「身体」に微妙な影響を与え、「精神」状態に影響を及ぼすこともあります。このような様々な状況や環境への対応は、一朝一夕に行えるものではなく、毎日・毎月・毎年の観察の積み重ねで行っている部分でもあります。職員一人一人が意識し続け、利用者にとってより良い対応を模索し続けていきたいです。

アルコール・薬物依存医療

平成25年5月27日、アルコール依存症の新しい治療薬「レグテクト」が発売となりました。レグテクトは、アルコール依存症の方の強い『飲酒欲求』を直接和らげてくれる作用があります。当院では12月現在、外来通院の患者様38名、入院中の患者様20名の方が服用されています。内服している方は「飲酒欲求が軽減した」と話され、再飲酒の抑制につながっています。当院での実際の効果を判定するための調査を行う予定です。患者様へは、適宜導入をすすめています。断酒が困難な方は、ぜひ外来に受診し相談して下さい。

包括的地域精神医療（ACT）

訪問看護の利用者登録者数が200名を越えています。当院の訪問範囲は広域であり、北部全般、中部全般（浦添市、中城村等）を5チームで活動をしています。治療抵抗性統合失調症に有効である、クロザリルを使用している利用者様が病状が良くなり通院を始めた方も20名を越えました。退院後に、入院中で行なったプログラムが退院後実践出来ているか、薬の管理や副作用時の対処法が適切に行えているか等を定期的に確認や相談を行なっています。また、長期に入院した利用者や病状の重い利用者について1チームがR-ACT（多職種チーム）としてACT的な活動を行っています。訪問看護の目指す、地域でその人らしく、生き生きとした生活ができるよう地域との関係者間で連携を深め日々地域を駆けまわっています。

臨床研究部活動状況 - 臨床心理学研究室より -

【琉球病院でのクロザリル投与の実践報告 クロザリルのための院内体制】

クロザリルの適正使用の推進のために製薬会社がクロザリル患者モニタリングサービス（以下 CPMS）を実施しております。これは、本剤投与中の患者の重篤な副作用出現時の早期対処等を目的とし、医療機関、保険薬局、医療従事者および患者を登録し、さまざまな対応を支援する仕組みです。当院では独自にクロザリル運営委員会を設置し、各病棟にコアメンバーとなるスタッフを配置しております。平成24年時点でCPMSに登録しているスタッフは医師5名、看護師87名、薬剤師4名おります。月1回定例会を実施し、副作用出現時には緊急に招集され対応を協議しております。その他、院内マニュアルの作成、クリティカルパスの作成、定期的な検査の導入などを実践しております。

